

- ・ 躁うつ病のうつ病相または混合状態
- ・ 気分変調性障害

③精神医学的診断がつかないタイプ

呼びかけ人にせよ追随者にせよ、精神医学的診断がつかない者もある。例えば事例 5 では、22 歳の男子大学生が「あと 40 年間、毎日同じ生活をするのは苦しい」という理由でネットで自殺を呼びかけた。それに呼応した別の男性は、「死にたい理由が特にあるわけでもないが、生きていてもつまらないし、頑張るのが面倒だから死のうと思った。人生に意味はないと思っていた」と述懐している。彼らに精神医学的診断を下すのは困難である。思春期あるいはモラトリウム期の一種の閉塞感で、一時的な希死念慮と考えられる。このような希死念慮でも、ネットで呼応し合うと自殺行動にまで発展することを示す事例である。命の重さを理解しない若者が増えているといわれるし、また、ニートと呼ばれる若者が 80 万人を超えているともいわれる現在、ネットを介した安易な自殺が危惧される。

E. ネットによる複数同時自殺の予防可能性について

まず、ネットによる複数同時自殺の予防を推進することの是非について考えておく。そもそも、予防が適応されない自殺というものがあるのかというと、理性的に決断された個人の選択としての自殺がこれに該当すると考えられる。その例としては、尊厳死

や安楽死が挙げられる。いずれも本邦では法的に認められているものではないので、積極的に幫助することは厳に慎まねばならないが、その予防となると、現実的にも理論的にも非常に難しい。本研究の第一の目的は、ネット複数同時自殺が、このような自殺に該当するのか否かを知ることであった。結果は、容認からは程遠い自殺であった。なぜなら、精神障害の関与が判明した事例もあったし、また、精神障害の明確な診断が下せない事例では、モラトリウム期の若者の一時的な希死念慮があまりにも安易に決行されていたからである。つまり、ネット複数同時自殺は予防の対象である。

次に、予防可能性と予防対策についてであるが、渋谷 (2005) によると、「ネット心中を含む自殺をした人のほとんどは、精神医療を受けていた」とのことである。そして彼は、「精神医療の現場として、どこまで患者を全人的にとらえることができるのか。その時間的、精神的余裕があるのか。こうしたことを検証しない限り、自傷行為は死と結びつく危険性から逃れられない」と、現在の精神医療の弱点を見事に突いている。精神医療の人的資源を増やし、全体の技量レベルを向上させるべきだということは筆者も全く同感である。しかし、これはあまりにも遠大な自殺予防対策である。また、ネット自殺に限ったことでもない。

着手可能な予防対策の 1 つは啓発活動である。ネット自殺にも精神障害が関与することを知らせ、精神医療に乗

せるよう啓発する。また、精神障害がない場合でも、若者の一時的な厭世観や希死念慮がネットで呼応し合い、安易な自殺行動に至る危険性を知らせ、カウンセリングや相談窓口などを整える。

次に考えられる予防策は、自殺を誘発・募集するようなサイトを禁止することであるが、これには失敗の前例がある。韓国では本邦よりも早くネット複数同時自殺が流行し、2002年に自殺系サイトが一斉に取り締まられた。しかし、しばらくすると、別のサイトに書き込みの場が移り、自殺の温床となった。この韓国の例は、サイトの取締りが奏功しないことを教えてくれる。取締りを強化しても、いたちごっこになるだけだろう。代わって、自殺系サイトに、自殺に関する正確な情報を載せることや、自殺予防を目的とする相談サイトを増やすことが、予防対策として考えられる。こういった取り組みは既に少しずつ始まっている。青少年健康センター（東京都文京区）で田村毅東京学芸大学助教授が電子メールでのカウンセリングを行っている。また、碓井真史新潟青陵大学教授

が自殺予防サイト「こころの散歩道」を運営している (<http://www.n-seiryo.ac.jp/~usui/>)。さらに、いのちの電話もネット上での相談受付を検討している。

ほかに、模倣をさせにくくするようなマスコミ報道のあり方を検討したり、命の大切さを尊重するような教育を充実させるなどの予防対策が考えられる。あらゆる角度から可能な限り予防策を講じていくことが大切であるが、実行可能性と有効性を考えると、自殺予防サイトを充実させることが急務と考えられる。

同時に、本研究では情報が限られていたために、十分な精神医学的検討が行い得なかったことから、今後も引き続き精神医学的観点からの実態解明の取り組みが必要である。その結果は、予防対策の発展に必ずや寄与するであろう。

文献

渋井哲也：ネット心中．NHK 出版，東京，2004

渋井哲也：男女七人ネット心中．新紀元社，東京，2005

社会における実態に関する研究

－（１）新聞における報道の実態－

分担研究者 堀口 逸子（順天堂大学医学部）

研究協力者 赤松 利恵（お茶の水女子大学生活科学部）

研究要旨

本研究では、新聞におけるネット自殺の報道の実態を探ることを目的に、1) ネット自殺発生と全国紙に報道された記事数の関連、2) 各新聞社のネット自殺事件の報道の概略、3) ネット自殺を報道した記事の内容について焦点をあてて検討した。その結果、1) 2003 年 2 月 11 日から 2004 年 12 月 31 日まで、「集団自殺」「ネット自殺」「ネット心中」の言葉を含む新聞記事は全国で 599 件であった。ネット自殺事件との関連をみると、ネット自殺が同日に複数の場所でおこると、記事の掲載も増えていた。2) ネット自殺事件を報道する全国 5 紙についてみると、取り扱う記事数や記事あたりの文字数、掲載面など、新聞社によって異なることがわかった。3) ネット自殺事件を報道する記事内容をみると、自殺サイトや自殺方法、自殺の原因が記述されていた。自殺に関するメディア報道は自殺のリスク要因とされていることから、欧米では自殺報道のメディアガイドラインが作成されている。日本においても、自殺に関するメディア報道のあり方を今一度考えなければならぬだろう。

A. 目的

公衆衛生の観点から、メディアにおける自殺に関する報道のあり方を検討することは重要である。自殺に関する情報は、新たな自殺行動の刺激や模倣の対象となる上、メディアが発信する情報は、不特定多数に向けているため、その影響力は大きい。

インターネットを通じて知り合ったものが同時に自殺する集団自殺（以下ネット自殺とする）は、それまでの家族や恋人が行う、いわゆる心中といった集団自殺とは異なることから、ニュース性が高く、センセーショナルな事件としてとりあげられ、2003 年に入ってから、メディア報道は急増している。

ネット自殺は世界でもまだ少なく、ネット自殺に関する報道の検討はこれまで行われていない。本研究では、新聞におけるネット自

殺の報道の実態を探ることを目的に、ここでは以下のことに焦点をあてて検討する。1) ネット自殺発生と全国紙に報道された記事数の関連、2) 各新聞社のネット自殺事件の報道の概略、3) ネット自殺を報道した記事の内容。

B. 対象と方法

新聞は、ネット自殺が最初に報道された、2003 年 2 月 11 日から 2004 年 12 月 31 日まで、全国で販売された全国紙を対象とした。朝日新聞、日経新聞、毎日新聞（地方版、西部版、大阪版、中部版、北海道版含む）産経新聞、読売新聞（西部読売新聞、大阪読売新聞、東京読売新聞含む）の 5 紙の朝刊と夕刊を対象とした。

新聞記事の収集には、新聞記事のデータベース、日経テレコム 21 (<http://www.nikkei>).

co.jp/telecom21/) を用いて、記事の中に「集団自殺」「ネット自殺」「ネット心中」に含まれている記事を抽出した。

1)のネット自殺発生と全国紙に報道された記事数の関連の検討では、抽出された全記事を対象に、ネット自殺、またはネット自殺に疑われる自殺との関連を時間的推移で記述する。2)のネット自殺事件の報道について各新聞社の概略の検討では、記事全体の中から、ネット自殺事件を報道する記事のみを抽出し、新聞社ごとの特徴を記述統計でまとめる。まず、新聞記事を2人の研究者が別々に以下4つの種類に分類し、その一致度を確認した。(1)ネット自殺事件を報道する記事、(2)ネット自殺事件を受けて組まれた特集記事や関連記事、(3)ネット自殺事件に対する個人的意見(投稿記事)、(4)ネット自殺事件とは直接関係がなく、ただ検索単語が記事に含まれていた記事(著作権の関係上、記事が入手できなかったものは欠損とした)。カッパ係数は、0.743 ($p<.001$) であった。不一致だった結果については、話し合いをもって最終結果を決定した(最終結果との一致度 それぞれ0.906と0.838, いずれも $p<.001$)。ここでは、(1)のネット自殺事件を報道する記事のみを対象に検討した。3)のネット自殺を報道した記事内容の検討では、ある1日に報道されたネット自殺関連記事を取りあげ、その記事の書き方について、質的な検討を行う。SPSS12.0J for Windows を用いて、記述統計を行った。

(倫理面への配慮)

本研究では、新聞記事のデータベースのみを対象とするため、研究倫理的な問題はないと考える。

C. 結果

1) ネット自殺発生と全国紙に報道された記事数の関連の検討

検索された記事は、599 件であり、新聞社ごとの数は、朝日新聞 159 件、日経新聞 33 件、毎日新聞 194 件、産経新聞 67 件、読売新聞 146 件であった。朝刊、夕刊に掲載された記事数はそれぞれ500件と99件であった。

新聞記事報道の時間的推移は図1の通りである。1日の記事が11件以上のネット自殺事件を図の中に示した。ネット自殺事件が別の場所で続けて起こると、記事の数が多い結果であった。なお、新聞記事抽出の期間のネット自殺の発生は、未遂、未確認を含み39件あった(表1)。

なお、599件は述べ数であり、同新聞社で同じ記事を改変して、地方で掲載した場合もカウントしている。

2) ネット自殺の報道について新聞社による比較

先に検討した599件の記事は、「集団自殺」「ネット自殺」「ネット心中」に含まれている記事であるため、ネット自殺事件の報道とは直接関係ない記事も含まれる(たとえば、読者の投稿やコラム記事など)。そこで、次に599件から、ネット自殺事件を報道した記事のみを対象に、報道の実態を新聞社ごとに検討した。ネット自殺事件を報道した記事は275件あった。

表2の通り、毎日新聞が最も記事数が多く99件であった。一方、記事が少なかったのは、日経新聞、産経新聞はそれぞれ24件、23件であった。この2社は報道した記事の数は近い結果であったが、記事1件あたりの平均文字数は、日経新聞は372.7文字が産経新聞は548.3文字と、文字数ではかなり差がみられる結果であった。また、写真や図などを用いて説明していた記事は、275件中34件(12.4%)あり、最も多かった新聞社が読売新聞(12件)少なかったのが日経新聞(2件)であった。主なものは、遺体が発見されたアパートで、自殺サイト(一部加工)を写真と

表 1 各新聞社のネット自殺事件（未遂および未確認含む）の報道

	事件発覚日	事件内容（場所等）	
1	2003/2/11	埼玉県入間市	男女 3 人
2	2003/3/5	三重県津市	男女 3 人
3	2003/3/16	山梨県上九一色村（未遂）	男女 4 人
4	2003/3/17	徳島県上板町	男女 3 人
5	2003/4/12	千葉県市原市	男女 3 人
6	2003/4/21	佐賀県富士町	男性 2 人
7	2003/5/6	群馬県水上町	男女 3 人
8	2003/5/18	宮崎県（3 月に未遂）	男女 3 人
9	2003/5/21	群馬県上野村	男性 3 人
10	2003/5/24	京都府京都市伏見区	男女 3 人
11	2003/6/2	徳島県麻植郡（未遂）	男女 2 人
12	2003/6/6	静岡県富士市	男性 4 人
13	2003/6/12	三重県名張市	男性 3 人
14	2003/6/14	大阪府八尾市	男女 3 人
15	2003/6/20	奈良県野迫村	男女 2 人
16	2003/7/10	栃木県塩原町	女性 2 人
17	2003/7/14	東京都八王子市	男女 4 人
18	2003/10/17	新潟県湯之谷村	男女 2 人
19	2003/10/25	宮城県七ヶ宿町	男女 3 人
20	2003/11/6	福井県三国町（未遂）	男女 3 人
21	2003/12/14	岐阜県根尾村	男女 3 人
22	2004/3/29	福岡県甘木市	男女 3 人

	事件発覚日	事件内容（場所等）	
23	2004/4/26	福島県大玉村	男女 3 人
24	2004/6/7	京都府日吉町	男性 3 人
25	2004/9/15	岐阜県清見町	女性 2 人
26	2004/9/28	埼玉県皆野町	男女 4 人
27	2004/10/5	東京都奥多摩町（未遂）	女性 4 人
28	2004/10/12	埼玉県皆野町	男女 7 人
29	2004/10/12	神奈川県横須賀市	女性 2 人
30	2004/11/17	神奈川県箱根町	男女 3 人
31	2004/11/21	兵庫県篠山市	男性 3 人
32	2004/11/21	福岡市早良区	男女 3 人
33	2004/11/28	群馬県水上町	男女 3 人
34	2004/11/29	東京都練馬区	男性 4 人
35	2004/11/29	静岡県静岡市	男女 4 人
36	2004/12/7	大分県弥生町	男女 3 人
37	2004/12/13	愛媛県久万高原町	男女 2 人
38	2004/12/23	神奈川県横浜市区北区	女性 2 人
39	2004/12/31	山梨県三珠町	男女 3 人

注意)上記の事件は、本研究で対象とした新聞記事から抽出しているため、実際にあった事件数内容とは異なる可能性もある。

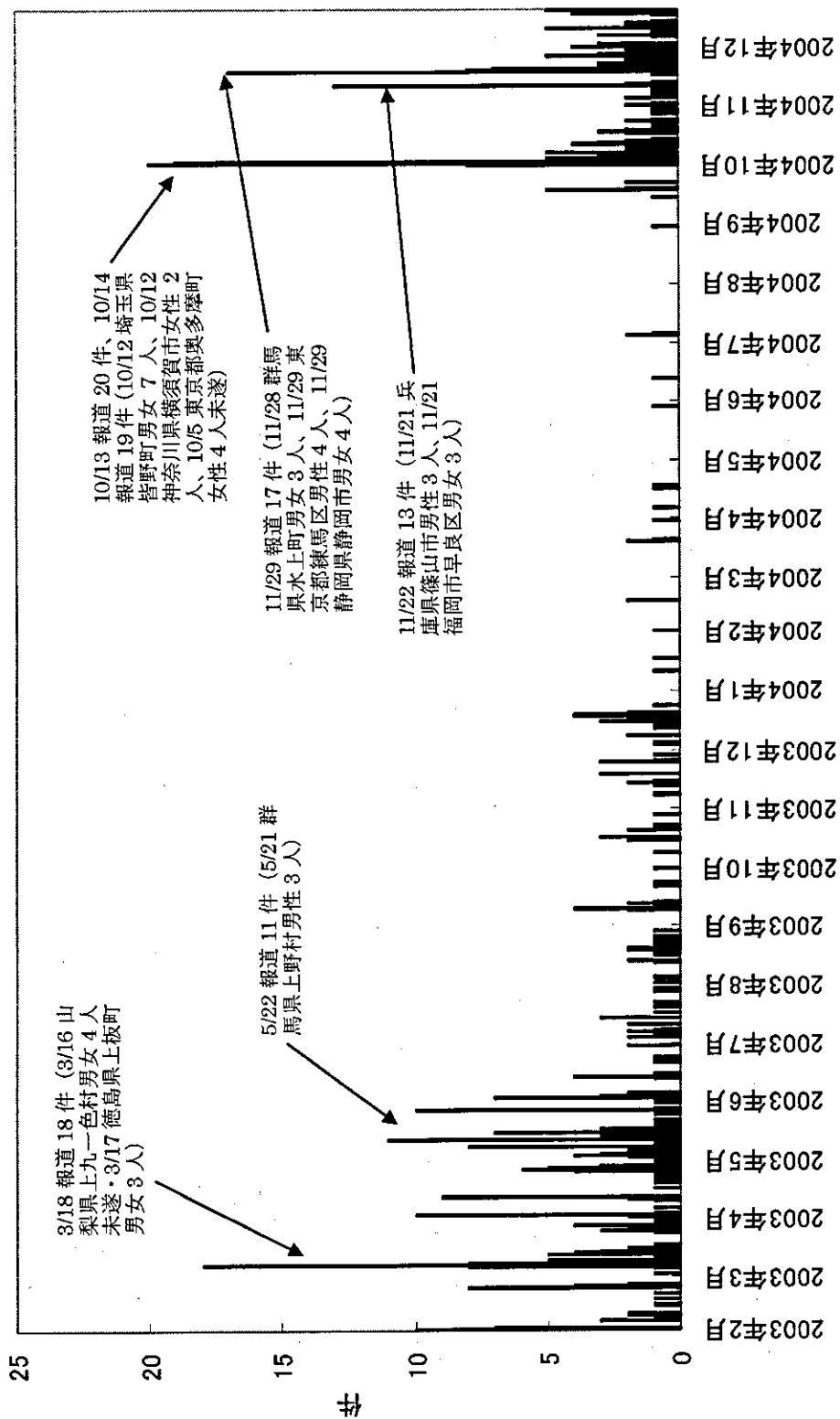


図 1 「集団自殺」「ネット自殺」「ネット心中」の言葉を含む新聞記事の時間的推移 (2003 年 2 月 11 日～2004 年 12 月 31 日)

表 2 各新聞社のネット自殺事件（未遂および未確認含む）の報道の概略($n=275$)

		朝日新聞 $n=62$	日経新聞 $n=24$	毎日新聞 $n=99$	産経新聞 $n=23$	読売新聞 $n=67$
1 記事あたりの平均文字数(SD)		507.3 (370.7)	372.7 (193.5)	484.4 (356.5)	548.3 (467.5)	530.8 (374.5)
朝刊か夕刊か	朝刊	50(80.6%)	16(66.7%)	77(77.8%)	23(100.0%)	58(86.6%)
	夕刊	12(19.4%)	8(33.3%)	22(22.2%)	0(0.0%)	9(13.4%)
写真や図等の有無	有	7(11.3%)	2(8.3%)	7(7.1%)	6(26.1%)	12(17.9%)
	無	55(88.7%)	22(91.7%)	92(92.9%)	17(73.9%)	55(82.1%)
発行場所	全国	49(79.0%)	24(100.0%)	35(35.4%)	23(100.0%)	50(74.6%)
	地方*	13(21.0%)	0(0.0%)	64(64.6%)	0(0.0%)	17(25.4%)
1 面報道	朝刊	0	0	1	0	0
	夕刊	0	0	2	0	0

*発行場所の全国とは、データベース上、地域を限定していなかったもの。地方には東京以外の地域、たとえば、中部、西部、大阪等を含んだもの。

して掲載していた。全国（東京を含む）で販売される新聞に掲載が多かった（181/277 件、65.8%）が、事件が発生したその土地の新聞では全国版の記事以外に地方での取材記事も掲載していた。特に記事数が多かった毎日新聞でその傾向がみられた。

掲載された新聞は、朝刊の方が夕刊より多く、全体では朝刊での掲載は 81.5%（224/275 件）にのぼった。朝刊の 1 面記事として報道したのは、毎日新聞のみであった（毎日新聞 3 件中 2 件は夕刊の 1 面）。

以上の結果から、ネット自殺事件の報道の扱い方は各社異なることが考えられた。

3) ネット自殺を報道した記事の内容

最後に、ネット自殺事件を書いた記事について、その内容を質的に検討する。ネット自殺として最初にとりあげられたといわれる 2003 年 2 月 11 日埼玉県入間市で発見された男女三人のネット自殺事件を事例に考える。

表 3 に各社が報道した新聞記事の概要を示した。新聞によるとこの事件は 11 日午後 4

時 15 分に発見された。12 日の朝刊に報道したのは、毎日新聞と産経新聞で、毎日新聞は 1 面トップ記事として報道した。毎日新聞は同新聞の 29 面や地方版のページ（27 面）でも取り扱い、最も多くの紙面を使って報道していたといえる。

各紙が最初に報道した記事内容を検討した（資料参照）。自殺方法の記載は、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞でみられた。いずれも、七輪の数や、窓や玄関を目張りしていたなど詳細に記述されていた。インターネットを通じて知り合ったとの記述は、どの記事でもみられた。さらに、インターネットの Web サイトに自殺サイトがあるということを知らせる情報は日経新聞を除き、全ての記事に含まれていた。特に、朝日新聞と産経新聞では、インターネットの自殺サイトについて別に項目立てを行い、詳しく述べていた。

このような内容を各紙が強調したことは見出しからも読み取れる。全ての記事の見出しに「ネット」の言葉が使われ、インターネットで知り合ったことがニュースとなっている

表3 2003年2月11日埼玉県入間市で発見された男女三人のネット自殺事件について各社が報道した新聞記事の概要

新聞社と見出し		掲載日	新聞種類	面	文字数	写真等の有無
朝日新聞						
1	ネット心中の3人、先月中に方法相談 入念に部屋密閉	2/12/03	夕	19	1596	無
2	「死にたい」漏らす 船橋の女性、家族に ネット心中 /千葉	2/13/03	朝	31	573	無
3	自分語らず死の相談 孤独嫌い道連れ募る 入間のネット心中/埼玉	2/13/03	朝	31	1753	有
日経新聞						
1	埼玉のネット自殺、就職などで悩む、女性2人には捜索願。	2/12/03	夕	21	571	無
毎日新聞*						
1	男女3人ネット心中 部屋を目張り、一酸化炭素中毒死――埼玉・入間	2/12/03	朝	1	847	無
2	男女3人ネット心中 自殺者、何度も募る――埼玉・入間の男性、ネット掲示板通じ	2/12/03	朝	29	692	無
3	20代の3人自殺? インターネットで志願者募り――埼玉・入間市のアパート	2/12/03	朝	25	1063	無
4	入間・3人自殺 男性、ネットで志願者募る 「練炭たいて眠るように…」 *／埼玉	2/12/03	朝	27	894	有
5	埼玉・入間の集団自殺 複数のサイトで、男性が自殺公募	2/12/03	夕	9	443	無
6	埼玉・入間の集団自殺 掲示板管理会社、アクセス停止	2/12/03	夕	9	262	無
7	入間・3人自殺 家族に「自殺したい…」――先月下旬、箱根旅行も *／埼玉	2/13/03	朝	23	978	有
産経新聞						
1	「自殺サイト」3人心中 男性が募集 20代女性2人応募 入間のアパート	2/12/03	朝	31	1500	有
読売新聞						
1	埼玉のネット自殺の女性2人 サイトに書き込みや家族に「死にたい」=訂正あり	2/12/03	夕	18	480	無
2	入間の集団自殺 ネットに潜む、危険性浮き彫り=埼玉	2/13/03	朝	32	1348	有
3	埼玉の集団自殺 自殺呼びかけ掲示板を停止	2/13/03	朝	38	166	無

*網掛けした毎日新聞の1と3は同記事。3の記事は、1の記事に専門家のコメントをプラスしたもの。

ことがわかる。さらに、朝日新聞と毎日新聞では、「入念に部屋密閉」や「部屋を目張り」など、自殺の方法も見出しに用いていた。

なお、自殺の原因と疑われている内容（就職に悩んでいた等）は、朝日新聞、日経新聞、毎日新聞の3紙でみられ、日経新聞のみが見出しに「就職などに悩む」と自殺の原因を用いていた。

D. 考察

本稿では、一昨年から各地で起こっているネット自殺について、新聞における報道の実態を調べた。1) 2003年2月11日から2004年12月31日まで、「集団自殺」「ネット自殺」「ネット心中」の言葉を含む新聞記事は全国で599件であった。ネット自殺事件との関連をみると、ネット自殺が同日に複数の場所でおこると、記事の掲載も増えていた。2) ネット自殺事件を報道する全国5紙についてみると、取り扱う記事数や記事あたりの文字数、掲載面など、新聞社によって異なることがわかった。3) ネット自殺事件を報道する記事内容をみると、自殺サイトや自殺方法、自殺の原因が記述されていた。以上の結果から、ネット自殺がセンセーショナルな事件として扱われていたこと、また事件の連鎖を考慮していない報道であったことも考えられる。

欧米では、各地で自殺に関するメディアガイドラインを発行している^{2,4)}。この目的は、メディア報道による模倣的自殺の発生の防止である。ガイドラインでは、主に報道量の規制、センセーショナルな報道を避ける、詳細な自殺の方法の記載をしない、死亡したことを肯定的に捉えないなどである¹⁾。スイスではガイドラインを発行したことにより、1面報道が20%から4%に落ちるなど³⁾、成果を見せている。ウィーンの例では、メディア報道のあり方を変えることで、自殺の数の減少を報告している⁴⁾。

本研究で取り扱った自殺は、ネット自殺で

あり、単独で行う自殺や絆が深い関係が起こす集団自殺とは異なる。ネット自殺はインターネットという情報媒体がきっかけとなっていることから、ネット自殺のリスクにあるものは、インターネットを中心とした情報に接する時間も長く、自殺のメディア報道の影響はこれまで以上に大きいことが予想される。

ここではメディアの中でも、新聞記事を対象にメディア報道を調べたが、新聞は印刷物といった特性から保存し、繰り返し読まれることから、テレビニュースより影響力がある¹⁾。さらに、近年、新聞記事はインターネット上で読めることから、インターネットのユーザーにとっては、新聞記事の影響は大きいと考える。

本研究では、新聞のみを対象としており、これらの報道がどの程度、その後のネット自殺に影響したかはわからないといった研究の限界は、いくつかあげられる。しかし、ネット自殺に関する新聞記事の検討は過去されたことがないことから、今後の検討の基礎的資料となることであろう。

E. 結論

日本はもともと世界的にも自殺が多い国と知られており⁵⁾、さらにこのネット自殺に関しては、海外から新しい集団自殺を流行させる恐れがあると指摘されている⁶⁾。我が国における自殺に関するメディア報道のあり方を今一度考えなければならないと考える。

引用文献

- 1) Stack S.(2003) Media coverage as a risk factor in suicide. J Epidemiol Community Health. 57(4):238-240.
- 2) The Samaritans(2002) Media Guidelines. www.samaritans.org [Accessed on 2005/2/20]
- 3) Michel K, Frey C, Wyss K, Valach L.(2000) An exercise in improving suicide

- | | |
|--|---|
| reporting in print media. | internet.BMJ.329(7478):1298-1299. |
| Crisis.;21(2):71-79. | |
| 4) Etzersdorfer E, Vijayakumar L, Schony W, Grausgruber A, Sonneck G. (1998) Attitudes towards suicide among medical students: comparison between Madras (India) and Vienna (Austria).Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 33(3):104-110. | F.健康危険情報
この研究において健康危険情報に該当するものはなかった。 |
| 5) Fishbain DA, Aldrich TE.(1985)Suicide pacts: international comparisons. J Clin Psychiatry. 46(1):11-15. | G.研究発表
なし |
| 6) Rajagopal S.(2004) Suicide pacts and the | H.知的財産権
この研究において知的財産権に該当するものはなかった。 |

<資料> 2003年2月11日のネット自殺について、各紙が最初に報道した記事

【朝日新聞】 ネット心中の3人、先月中に方法相談 入念に部屋密閉

埼玉県入間市下藤沢の空きアパートで心中した男女3人が、1月中に都内で会って自殺方法などを相談していたことが、12日までの県警狭山署の調べでわかった。自殺した和室にはビニールシートが敷かれるなどしていたといい、3人は入念に準備して自殺に臨んだと見られる。

男性のほか、自殺したのは千葉県船橋市の無職女性(24)と川崎市の無職女性(22)。同署によると、3人はそれぞれ今月初旬から帰宅しておらず、女性の家族からは捜索願が出されていた。

同署が家族やインターネットでやり取りをしていた女子高校生らから聞き取ったところでは、男性は、昨春から職探しをしていたが見つかっていなかったという。

一方、自殺した3人は、昨年12月ごろ、ネットを通じて知り合ったらしい。1月には、女子高生を含めて東京・渋谷のカラオケボックスなどで会い、自殺に関する相談を続けていたという。

遺体が見つかったアパートの6畳間には、練炭入りの七輪が4個置かれ、窓が粘着テープで目張りされていたほか、ビニールシートが床に敷き詰められていた。遺体は右側に男性が横たわる「川」の字に並び、男性はコート姿、女性は寝袋に入っていたという。

男性は昨年12月、HPの掲示板に「練炭・コンロ・睡眠薬・密封できる部屋。すべてそろえ終わりました」と書き込んでいた。同署は「シートは死後、汚れるのを嫌ったか、密閉性を高めるためだったのではないかなどと見ています。

◇自殺願望、書き込み1000件 ネット掲示板、利用停止

遺体で発見された男性(26)は「本気の方お待ちしております」などとインターネット上の電子掲示板で心中相手を募っていた。掲示板には昨秋以降だけで、20人近くが書き込みしており、一緒に自殺する相手を募る言葉が並んでいた。

この掲示板は「出会いと別れの掲示板改め 心中掲示板β」。自殺した男性からと見られる最初の書き込みは昨年10月21日。「月夜」のハンドルネームで、「心中相手募集中 関東編」と題し投稿した。

「必要道具は確保しています。どなたか、参加できる方を募集しています」

12月9日、「美夕」と名乗る女性と連名で投稿した。「ただし、女性に限ります。男性だとトラブルに巻き込まれる可能性もありますので。やっぱり、独りだと寂しいですからね。本気の方お待ちしております」

12月14日、書き込みは終わった。

掲示板には、今回自殺した男性以外にも、自殺に関する投稿が寄せられている。掲示板を管理する大阪の業者によると、最初の書き込みは00年10月1日で、これまでに計約1千件のメール投稿があったという。

「未遂ばかりくりかえして、やっぱり1人で死ねない。心残りはないので、だれか必ず一緒に逝ってくれる人を募集します。13歳です。明日にでも逝きたいぐらい」

「今日。ある方といくはずだったのですが……だめでした。向こう側が私と死にたくないそうで…本気のかたメールください！ すぐに！」

掲示板を管理する大阪のプロバイダーは12日午前11時、「内容がふさわしくない」として利用を一時停止した。

男性は、ほかに複数の掲示板で心中相手を募っていたらしい。別の掲示板に男性あてとみられる投稿が残されていた。

「本気で死ぬなら未遂で終わってほしくない、あとがつらいです。本当に死ねるなら、私も誘って下さいね カリ19才」

○流行が怖い

陀摩武俊・東京国際大学大学院教授(臨床心理学)の話 人間関係の希薄になった現代青年の孤独の底知れぬ深さを感じる。「死にたい」と打ち明けられる友人もいない。家族もつながりがほとんどない。学校も就職先もなく、孤立している。生きた会話のできる相手がなく、インターネットを通じた表面的な人間関係しか築けなくなっている。ネットでは匿名で気軽に自殺希望者を募ることができる。こうしたことがさらに流行してしまうことを恐れる。

【日本経済新聞】 埼玉のネット自殺、就職などで悩む、女性2人には捜索願。

インターネットで知り合った男女三人が埼玉県入間市のアパートで自殺した事件で、死亡した女性二人はいずれも今月十日、家族から地元警察に捜索願が出ていたことが十二日、同県警狭山署の調べで分かった。三人とも就職問題などで悩んでいたという。

自殺現場を最初に見つけた栃木県的女子高生(17)が当初、今回の自殺に参加する予定だったことも判明。同署は三人の家族や女子高生から引き続き話を聴き、経緯や動機を調べている。

調べでは、三人はいずれも無職で、入間市の男性(26)、千葉県船橋市の女性(24)、川崎市高津区の女性(22)。

川崎市の女性は今月二日から行方不明になっており、父親は「行きたかった道に進めず思い詰めていたようだ。死にたいと言ったこともある」と漏らしていたという。

船橋市の女性も五日から行方が分からなくなっていた。家族がパソコンを見たところ、自殺をほのめかす書き込みをした形跡があり、心配になり警察に届けていた。

入間市の男性は昨年十二月、掲示板で自殺志願者を募り、船橋市の女性や女子高生が返信。今年一月中旬、東京・渋谷のカラオケボックスで自殺の日時などを打ち合わせた。男性は「仕事が見つからない」と話し、ふさぎ込んだ様子だったという。女子高生はその後、自殺を断念。自殺志願者を募った男性と連絡が取れなくなったため、現場を訪れたという。

【毎日新聞】男女3人ネット心中 部屋を目張り、一酸化炭素中毒死——埼玉・入間

11日午後4時15分ごろ、埼玉県入間市下藤沢のアパート1階の空き室で、近くに住む無職男性(26)と若い女性2人が倒れ、死亡しているのを栃木県内の女子高校生(17)が発見、119番通報した。室内には七輪が4個置かれ、窓や部屋の入り口は粘着テープで目張りがされていた。狭山署は、3人は自殺志願者が集まるインターネットのホームページを通じて知り合い、集団自殺をしたとみている。(社会面に関連記事)

調べでは、女性3人とも無職で、千葉県船橋市の女性(24)と川崎市の女性(22)。3人は6畳和室で服を着たまま倒れていた。外傷はなかった。和室内にあった七輪の練炭は火が消えた状態だった。3人とも死後数日とみられ、一酸化炭素(CO)中毒で死亡したらしい。女性2人は、それぞれ寝袋の中で死んでいた。遺書は見つかっていない。

発見した女子高生は同署の調べに対し「男性がインターネットで、この部屋で自殺する人を募っていた。男性と連絡を取っていたが、電話が途絶えたため心配になった」と話しており、栃木県から様子を見に来たという。玄関の鍵が掛かっていたため、窓から室内をのぞき、3人を発見した。

女子高生の話では、1月上旬、死亡した男性と女子高生らは、今回の現場の下見をしたという。また同月中旬には、自殺した3人と女子高生を含む4、5人で、東京・渋谷駅近くで待ち合わせ、喫茶店やカラオケ店でいつ自殺するかなどを話し合ったという。

女子高生は2月上旬に、同じ掲示板に参加しないことを書き込んだという。女子高生によると「男性は昨春まで会社勤めしていた。『仕事が見つからない』と話していた」という。

昨年10月には、東京都練馬区でも、ネットを通じて知り合ったと見られる男女2人がマンションの一室で自殺した。98年12月には、東京都杉並区の女性(当時24歳)が、インターネットを通じて入手した青酸カリを飲み自殺、送付した札幌市の塾講師の男(当時27歳)もその後自殺したが、死亡後に自殺ほう助容疑で書類送検された。【高島博之】

【産経新聞】「自殺サイト」3人心 男性が募集 20代女性2人応募 入間のアパート

十一日午後四時十五分ごろ、埼玉県入間市下藤沢のアパートの空き室で、二十代の男性一人と女性二人が川の字に並んで倒れているのを、訪ねてきた栃木県に住む高校二年の女子生徒(一七)が見つけた。一、九番した。三人は病院に運ばれたが既に死亡していた。死因は一酸化炭素中毒とみられる。県警狭山署は女子高生の話から、男性がインターネットの自殺サイトを通じて自殺志願者を募集し、応募者の二人と心中したとみて調べている。

同署によると、死亡者は、近くに住む無職の男性(二六)と千葉県船橋市東船橋の無職の女性(二四)、川崎市の無職女性(二二)と分かった。

三人は六畳和室に並んであおむけに横たわり、女性二人は別々の寝袋に入っていた。三人とも外傷はなく、遺書などは見つからない。検視の結果、十日に死亡したらしい。

三人がいた部屋には睡眠薬の錠剤のほか、七輪四個、アウトドア用コンロ二個が置かれていた。中には練炭が計十二個あり、発見時は五分の一ほどが燃えた状態で、いずれも火は消えていた。玄関は施錠され粘着テープで目張りしてあった。

調べに対し女子高生は、昨年十二月ごろ、死亡した男性が「心中募集」という書き込みをしたインターネット上の「心中掲示板」を通じて男性と知り合ったと説明。一カ月ほど前に一度、この空き室を訪ねたことがあるが、「数日前から男性と連絡が取れず、心配になって来てみた」と話している。雨戸のすき間から中をのぞき発見したという。

死亡した三人と発見者の女子高生は一月中旬、東京の渋谷駅近くのカラオケボックスで自殺の打ち合わせをしていたという。



◆薬物売買／仲間募集 野放し「死の出会い系」

インターネット上には、自殺をテーマにしたサイトが数多く存在する。自殺するための薬物などを売買する情報もあふれている。特に最近では、一緒に死んでくれる「仲間」を探す「心中掲示板」と呼ばれる死の出会い系サイトもあるが、法規制はなく野放しになっているのが現状だ。

「心中掲示板」は、自殺願望を持つ人同士が匿名で書き込みをするもので、バーチャル(仮想)の心中を繰り返し、その過程を公開する。中には「気が合ったら実行」などと、遊びとも本気とも受け取れる内容の書き込みも見られる。

平成十二年には、ホームページで知り合った福井県武生市の男性歯科医師と愛知県の無職女性が睡眠薬で心中した。

米カリフォルニアでは一九九七年、ネットで結び付いた「ヘブンズ・ゲート(天国の門)」と称するプログラマー三十九人が集団自殺する事件も起きている。

ネット上で取引した毒薬が自殺に使われたケースも多い。平成十年、札幌市の元塾講師が「ドクターキリコの診療室」と称する自殺勧誘サイトを開設し、青酸カリなどを自殺志願者に郵送。東京の女性ら二人と元塾講師が自殺した。十一年には静岡市の女性が「死ねる薬を下さい」などとネットで呼び掛け、入手した筋弛緩(しかん)剤を飲んで一時重体になった。

一方で、自殺に関するHPの中には、まじめな悩み相談などを書き込むものも多く、「出会い系サイト」の法規制は検討されているが、自殺志願サイトの規制はない。



◆規制の検討必要

板倉宏・日大教授(刑法)「自殺に使われることを承知で毒物などの入手を助ければ、刑法の自殺幫助(ほうじょ)罪にあたるが、ネット上で自殺志願の情報を流すこと自体を処罰する法律はない。将来は規制の検討が必要かもしれない」

【写真説明】

男女3人が遺体で発見されたアパート。現場は左端一階の部屋＝12日午前零時40分、埼玉県入間市下藤沢

【東京読売新聞】埼玉のネット自殺の女性2人 サイトに書き込みや家族に「死にたい」＝訂正あり

埼玉県入間市下藤沢のアパートで十一日、近くの無職男性(26)と女性二人の遺体が見つかった事件で、狭山署は十二日、三人は、自殺志願者が利用するインターネットのサイトを通じて知り合い、集団自殺したものと断定した。

狭山署によると、死亡した二人の女性のうち、千葉県船橋市内の無職女性(24)は、家族が今月十日、船橋署に家出人捜索願を提出。家族は「(女性が)自殺サイトに書き込みしていたのを見たことがある」と話している。もう一人の川崎市内の無職女性(22)は、うつ病で通院していたといい、今月二日から家出、家族が十日に高津署に捜索願を出していた。家族には「死にたい」と漏らしていたという。

一方、三人の遺体を発見した栃木県内の女子高生(17)は当初、サイトの掲示板で心中相手を募る男性の呼び掛けに応じて、男性と現場アパートの下見などをしてしたが、先月下旬、サイトで「私は参加しない」と意思表示していた。

〔訂正〕(2003年2月13日処理)

記事で、「川崎市内の無職女性(22)」とあるのは、「川崎市内の無職女性(24)」の誤りでした。警察の訂正によるものです。

平成 16 年度厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
「Web サイトを介しての複数同時自殺の実態と予防に関する研究」
分担研究報告書

社会における実態に関する研究
—（２）テレビにおける報道の実態—

分担研究者 堀口 逸子（順天堂大学医学部）
研究協力者 柄本 三代子（法政大学ほか）

研究要旨

本研究では、ネット自殺がどのようにテレビ報道されているのかを調べるため、2004 年 7 月 1 日から 12 月 31 日までに首都圏で放送された各局（NHK、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京）のテレビ番組の中で、「ネット自殺」「集団自殺」「ネット心中」をキーワードに検索し抽出された番組を調査対象とした。この期間各局では 156 番組がネット自殺を取り上げていた。とくに注目したのは、どのような専門家が登場して、どのように「解説」するのか、という点である。結果として、精神疾患とネット自殺を明確に関連づける番組および専門家はほとんど無かった。どのようにネット自殺するものたちを救えるのか、あるいは根本的問題解決の糸口を探れるのかといった「予防策」についての言及も乏しく、むしろ顕著であったのは自殺した者たちへのバッシングであった。

A. 目的

日本の自殺報道に関する先行研究については、海外の関心も高く、精神医学および社会心理学的分野において中心的になされてきているⁱⁱ。また報告者は、マスメディアによってある事象がいかにもリスクとして「科学的に」言説化され映像化され報じられるのかということを、これまで「健康被害」などの事例を中心に研究してきた。自殺もまた一種の「病い」との関連で論じる者たちにとって、まさに健康被害に他ならない。

テレビジョンというマスメディアの、他にない特徴として先ず挙げられるのが「速報性」と「分かりやすさ」の二点であるⁱⁱⁱ。本研究では特に「分かりやすさ」という側面に注目した。

すなわち「ネット自殺」という従来あまりなかった自殺方法（手段）の登場を、どのように定義づけ意味づけて報道するのかという点に注目した。その際に重要となってくるのが専門家の役割である。専門家たちがどのように説明するのか、ということを主たる調査

目的とした。

すなわち、報道や提供される情報の社会的影響とメディアリテラシーの改善、発端者と同時自殺者間に発生する関係、「ネット自殺」の呼びかけ自体が他者を害する違法行為ではないか、といった諸点が検討されるべき課題となるだろう。

また、自殺一般については精神科医からは精神疾患との関連が指摘されている^{iv}。したがって、番組内でどのような精神疾患と関連づけられているのかいないのか、という点についても注目した。

さらには、何らかの予防方法についての言及の有無についての調査も目的とした。

また量的に日別の報道時間数（秒）を追うことによって、全体の傾向をつかむ事も目的とした。

B. 対象と方法

事実関係を知る上で重要であると考え、新聞報道についても参考資料として収集したが、本報告で主として検討対象としたのは「テレ

ビ番組」である。2004年7月1日から12月31日までに首都圏で放送された各局（NHK、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京）の「テレビ番組」の中で、ネット自殺を取り上げたものについてモニター会社（ニホンモニター）にモニタリングを依頼した。モニターは、「ネット自殺」「集団自殺」「ネット心中」をキーワードとして行われた。

すべての「テレビ番組」についてモニター会社に依頼した。いわゆる「ニュース番組」に特定していないのは、ワイドショーなどの他番組における「ニュースコーナー」的なものも含め、すべてのテレビ報道を調査対象とするためである。

モニター結果を元に、実際の内容分析対象については、以下の抽出条件によりさらに絞った。

- ①放送時間が比較的長いもの（概ね一分以上）
- ②当該の自殺に関して第一報であるもの
- ③同一番組内で繰り返し放送されているもの
- ④モニター期間中に発生し、かつ放送されたすべての「ネット自殺」を網羅していること

C. 結果

先述のように収集された2004年7月から12月までの放送分において、156番組がネット自殺を取り上げていた。

表1は調査期間における各放送局の放送時間総計を日別に表したものである。

そのうち、先述した抽出条件により実際に内容分析対象としたのは、表2にある57番組である。

表2「インターネットと関連づける文字情報」は、インターネットと関連づける文字情報について、画面上テロップと、新聞記事を紹介する番組についてはアップになった紙上の文字を拾った。文字に特に注目したのは、情報を読み取る際に音や映像よりも強く「方向づけ」（すなわち「どのように理解すればよいのか」という定義づけ）される傾向があるからである。テレビ番組においてテロップ等

の文字情報が多用される理由でもある。

番組内に登場し、何らかの説明・解説を加える人物は「専門家」に限定されない。本研究で「専門家」として、司会者・アナウンサー・番組全体を通してのゲスト、これらの人たち以外に限定した。その結果「ネット自殺」に関する「専門家」は、以下の三つのカテゴリーに大別された。

- A 法律家
- B 精神科の臨床医および心理学者、カウンセラー
- C インターネット関係者（詳しい人）

それぞれの専門的立場からの発言については表2を参照のこと。

予防法について言及する専門家はほとんど見られなかった。例外的にあっても、具体性には欠けていた（リスト№25、31、34参照）。

表2には示されていないが、自殺者の人物像については、以下の四つに大別された。

- A ネット自殺した人本人に対するもの
- B 自殺する人一般に関するもの
- C 最近の若者
- D インターネットにはまる人間

しかし、自殺に関連する精神的疾患についてはほとんど言及がなかった。自殺した人がたまたま精神科への通院歴があったという言葉はあったが、そのことと自殺との結びつきについてはあえて否定されていた。

D. 考察

表1によると、10月12日に発生した埼玉県皆野町のネット自殺について最も多く報道されていた事が分かる。その後継続的にネット自殺は発生するのであるが、表2に見られるように、だんだんと報道量は少なくなり、インターネットと関連づけた表現や、「ネット自殺」あるいは「ネット心中」という言葉の使用頻度が少なくなっていく。

内容に関しては、例えば2004年9月28日に発見され報道された埼玉県皆野町における男女4人のネット自殺については、同日22時55分の「NHKニュース」で1分5秒、「筑紫哲也ニュース23」（TBS）で48秒報道されている。しかし同日には「集団」で「自殺」

ということに重点がおかれ、インターネットとの関連にはほとんど言及されていない。翌29日になって初めて、23時25分からの「NHK ニュース」で「インターネットのサイトで知り合い4人で自殺か」と、ネットとの関連について示唆される。

このように「ネット自殺」等のインターネットとの関連が、文字によっても音声によっても示されない報道があった。しかし、「車中で」「練炭を用い」「接点のない人々が」「集団で」といったことについては、短い放送時間のものでも言及されていた。つまり、自殺の方法についてはすべての番組が言及していた。

まったく無関連の人間が集団で自殺するという「不可解な事実」を前にして、先ず「一体何が起こったのか」を定義するために様々な分野の専門的知識が動員されていた。さらに自殺サイトそのものに対する規制の必要性が主として法学者によって主張され、「対人関係が希薄な現代社会」に起因するものという心理学者の指摘が登場する。

インターネットそのものを否定し批判するといった言説もあった一方で、そのポジティブな面についても報道されていた。後者にはネット自殺はネットによっても救われる、というものも含まれている。

しかし、すべての番組についてどのようにして自殺するか、という方法の提示にはなっていない、予防策についての言及はほとんどなかった。

E. 結論および今後の検討課題

番組内に登場する専門家たちは問題点の指

摘に止まり、具体的解決策や予防法についてはほとんど言及していない。

このことに派生する問題点と思われたのが「自殺者パッシング」であった。とくに10月12日に発生した埼玉県皆野町の「子供を残して死んだ」主婦に対しては顕著であった。

また、「ネット自殺」という表現を控えるといった傾向が出てきているのではないかと推測された。これについてはさらに検討を要する。

いずれにしてもテレビ報道の社会的影響について、これらの報道を受け手がどのように捉えるのか、という受け手調査の必要性を強く感じた。

以下の点については時間的制限により未着手であるが、今後さらに検討したい。

単一TV局の一日の放送の中で、番組別の放送時間と内容との相違についても分析する必要があるだろう。インターネットという新しいメディアに対する批判と、自殺批判とがどのように交差しているのか。

F. 健康危険情報

この研究において健康危険情報に該当するものはなかった。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権

この研究において知的財産権に該当するものはなかった。

ⁱ Stack, Steven, 1996, 'The effect of the media on suicide: Evidence from Japan, 1955-1985,' *Suicide & Life-Threatening Behavior*, Summer 1996; 26, 2; pp.132-42.

ⁱⁱ 幸田るみ子他、2002年『日本社会精神医学会雑誌』10(3)「わが国のテレビニュースにおける自殺報道の実態調査と分析」pp.247-51.など。

ⁱⁱⁱ Fiske, John, 1987, *Television Culture*.

^{iv} 坂本真士、2004年『こころの臨床』23(1)「社会心理学的観点からみた自殺の問題」pp.61-5.など。

	NHK	NTV	TBS	CX	EX	TX	計(秒)
9/28	65	0	48	0	0	0	113
9/29	63	156	96	58	46	0	419
9/30	0	14	142	0	147	0	303
10/1	0	0	0	0	0	0	0
10/2	0	0	0	0	47	0	47
10/3	0	0	0	0	0	0	0
10/4	0	0	0	0	0	0	0
10/5	0	0	0	0	0	0	0
10/6	0	0	0	0	0	0	0
10/7	0	0	0	0	0	0	0
10/8	0	0	0	0	0	0	0
10/9	0	0	0	0	0	0	0
10/10	0	0	0	0	0	0	0
10/11	0	0	0	0	0	0	0
10/12	1376	1929	996	989	805	437	6532
10/13	1003	2119	2117	1554	2795	314	9902
10/14	0	0	287	56	1275	0	1618
10/15	72	0	72	0	33	0	177
10/16	0	28	857	8	60	0	953
10/17	0	0	644	718	0	0	1362
10/18	0	0	0	0	0	0	0
10/19	0	0	0	0	0	0	0
10/20	0	0	0	0	0	0	0
10/21	0	0	75	0	0	0	75
10/22	0	0	0	0	0	0	0
10/23	0	0	0	0	0	0	0
10/24	0	0	0	0	0	0	0
10/25	0	0	0	0	0	0	0
10/26	0	0	0	0	0	0	0
10/27	0	0	0	0	0	0	0
10/28	0	0	0	0	0	0	0
10/29	0	0	0	0	0	0	0
10/30	66	0	0	0	0	0	66
10/31	0	0	0	0	0	0	0
11/1	0	0	0	0	0	0	0
11/2	0	0	0	0	0	0	0
11/3	0	0	0	0	0	0	0
11/4	0	0	0	0	0	0	0
11/5	0	0	0	0	0	0	0
11/6	0	0	0	0	0	0	0
11/7	0	0	0	0	0	0	0
11/8	0	0	0	0	0	0	0
11/9	0	0	0	0	0	0	0
11/10	0	0	0	0	0	0	0
11/11	453	0	0	0	0	0	453
11/12	0	0	0	0	0	0	0
11/13	0	0	0	0	0	0	0
11/14	0	0	0	0	0	0	0
11/15	0	0	0	0	0	0	0
11/16	0	0	0	0	0	0	0
11/17	63	0	0	0	0	0	63
11/18	0	0	0	0	47	0	47
11/19	0	0	0	0	0	0	0
11/20	0	0	0	0	0	0	0
11/21	116	0	0	0	97	0	213
11/22	286	522	86	262	203	0	1359

	NHK	NTV	TBS	CX	EX	TX	計(秒)
11/23	0	0	71	0	0	0	71
11/24	0	0	0	0	0	0	0
11/25	0	0	0	0	0	0	0
11/26	0	0	0	0	0	0	0
11/27	0	0	0	0	0	0	0
11/28	452	154	108	126	95	145	1080
11/29	263	431	277	86	197	0	1254
11/30	237	103	187	0	57	0	584
12/1	0	0	0	0	0	0	0
12/2	0	0	0	0	0	0	0
12/3	0	0	0	0	0	0	0
12/4	0	0	0	0	0	0	0
12/5	0	0	83	0	0	0	83
12/6	0	0	0	0	0	0	0
12/7	0	0	49	0	0	0	49
12/8	0	0	0	0	0	0	0
12/9	0	0	0	0	0	0	0
12/10	0	0	0	0	0	0	0
12/11	0	0	0	0	0	0	0
12/12	0	0	0	0	0	0	0
12/13	0	0	0	0	0	0	0
12/14	172	0	182	0	37	0	391
12/15	0	0	159	0	0	0	159
12/16	0	0	0	0	0	0	0
12/17	0	0	0	0	0	0	0
12/18	0	0	0	0	0	0	0
12/19	0	0	0	0	0	0	0
12/20	0	0	0	0	0	0	0
12/21	0	0	0	0	0	0	0
12/22	0	0	0	0	0	0	0
12/23	0	0	0	29	0	0	29
12/24	0	0	0	0	0	0	0
12/25	0	0	0	0	0	0	0
12/26	0	0	1343	0	0	0	1343
12/27	0	0	0	0	0	0	0
12/28	0	0	0	0	0	0	0
12/29	0	0	0	0	0	0	0
12/30	57	0	0	0	134	0	191
12/31	0	0	0	0	181	0	181

総計	28282
----	-------

発生場所	放送日	No.	放送局	放送時間(秒)	インターネットと関連づける文字情報 (telop & newspaper)	登場する専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無しで音声でのネットとのつながり	精神疾患と関連する表現
埼玉県宮野町	9/28	1	NHK	65	N	N	N	N	N	N
		2	TBS	48	N	N	N	N	N	N
	9/29	3	NHK	63	サイトで知り合い／少年 自殺志願者サイトに約1年前からアクセス／警察“ネット”で知り合い 4人一緒に自殺か”	N	N	N	N	N
		4	TBS	65	N	N	N	N	N	N
	9/30	5	TBS	142	またインターネット集団自殺なぜこのサイトは野放しなのか／自殺サイトに書き込み／サイトに楽に死ねると紹介されている自殺法／『心中掲示板』といったサイトがネットの掲示板に続々登場／ネット上が無法地帯／ネットの問題点 (日刊ゲンダイ) ※またインターネット集団自殺? (telop)	N	N	N	N	N
		6	EX	147	またインターネット集団自殺なぜこのサイトは野放しなのか／自殺サイトに書き込み／サイトに楽に死ねると紹介されている自殺法／『心中掲示板』といったサイトがネットの掲示板に続々登場／ネット上が無法地帯／警察はサイトという規制しないのではなく、できないのです。自殺系サイトというのは／自殺者をサイトの責任にするのは難しいのが実情／ネットの問題点 (日刊ゲンダイ)	N	N	N	N	N
		7	NHK	163	N	N	N	N	N	N
		8	NHK	395	7人死亡 ネットで知り合ったか／警察 インターネットで知り合い集団自殺とみて身元確認中／警察 インターネットで知り合い自殺とみて動機など調べる／ネットで知り合い集団自殺か／警察 インターネットで知り合い集団自殺とみて身元確認中／ネットで知り合い集団自殺／7人死亡 ネットで知り合い自殺か	N	N	N	N	N
		9	NHK	242	ネットで知り合い集団自殺か／警察 自殺方法や広範囲な住所からネット通じ集団自殺とみて確認急ぐ／横須賀で2人自殺 ネット通じてか／死亡の2人 過去にも自殺図る“自殺”テマのホームページ見る／横須賀で2人自殺 ネット通じてか／2人はインターネットで知り合い自殺か／ネットで集団自殺 去年から増加／ホームページで知り合い集団自殺／自殺極う掲示板“自殺したい”の書き込みも	N	N	「警察庁は緊急性が高いと判断された場合、警察からの問い合わせに対して発信元等を示してもらうことができないかプロバイダーで作る団体と協議を進めています」	N	N
		10	NTV	1212	警察「2人とも自殺系サイトを見ていたとみられる」／「自殺相談」サイト運営者の思い／夫「インターネットのめりこんでいた」／自殺関連サイト／相次ぐ“若者の死”「自殺サイト」は……／自殺した若者の中にはサイトを見ていた人も——／サイト運営人	元警視庁捜査1課長 殺人など凶悪事件捜査のトップ 臨床心理士 自殺の心算を研究	当事者だけの合意か 関与者はいないか／自殺を教唆した人を助けた付託した、あるいは承諾を得て殺害した犯罪行為がある／行きずりの凶悪犯罪	N	「最近インターネットのめりこんでいた」	N

発 生 場 所	放 送 日	No.	放 送 局	放 送 時 間 (秒)	インターネットと関連づける文字情報 (telop & newspaper)	登場する 専門家	専門家による説明	予防方法／予防策	文字情報無し で音声での ネットとのつな がり	精神疾 患と関 連する 表現
		11	NTV	278	ネットで知り合う？集団自殺相次ぐ／インターネットの自殺 サイト／インターネット上の自殺サイト／自殺サイト運営者 ／ネットによる集団自殺者／死にたいと思っている方メール 下さい	西武文 理大学 講師 臨 床心理	何か背中を押してくれるものと して何人かで一緒に死ねば自 分も(自殺を)決行できるだろう と考えてしまうようだ	自殺防止センター 夜8時～翌朝6 時まで年中無休で電話相談(予防 手段というよりも自殺者の様子に ついてインタビュー)	N	N
		12	TBS	346	ネット心中／自殺した男女が知り合った掲示板／7人の自 殺について書き込みが——／掲示板の登録者は995人	N	N	いのちの電話 気持ちを打ちあけ られる人間関係づくりが大事 ネットではなく実際に言葉のやりと りをするところがあったはず	「インターネッ トで知り合った 仲間同士」	N
		13	TBS	475	埼玉の山林で7人死亡 ネットで知り合い集団自殺か／ネッ トのサイトがきっかけか？若者の縁戚集団自殺相次ぐ… ／男女9人が自殺 インターネット仲間か？／自殺した男女 が知り合った掲示板／自殺した7人についても書き込み が…／掲示板の登録者は995人／警察 インターネットの サイトが今回の集団自殺のきっかけになった可能性を示唆 ／ネット心中	上智大 学名譽 教授	インターネットの掲示板やサイ トで対話や知り合いが生まれる と背中を押されるようになって 後は自分の意志があまりかか わらずどんどん事が運んでしま い不幸な結果になる／見ず知ら ずの人が集まったかわがまま は言えない。しかも自殺すると いう方向性や“志”が同じだとい う事で集まったから死ぬのが嫌 になった引き返したいという事 が出来なくなる	いのちの電話 気持ちを打ちあけ られる人間関係づくりが大事 ネットではなく実際に言葉のやりと りをするところがあったはず／専 門家の中には同じネットに自殺防 止のホームページを立ち上げると か逆のものをやるべきだという声 がありますね(中略)生きていく事 をサポートする仕組みというのが 必要ではないですかね(筑紫哲 也)	略	N
	10/12				自殺に関するサイト／7人 自殺サイトで知り合った可能性 ／7人が「ネット心中」なら過去最多の人数／皆野町(9月28 日)自殺関連サイトで知り合ったとみられる男女4人が自殺 ／ネット心中／“ネット”でさらに女性2人も…男女7人集団 自殺／男女7人レナンタン自殺“ネット”で仲間を／2人はイン ターネットの自殺サイトで知り合う／インターネット／“自殺 サイト”に志願者 相次ぐ集団自殺 問題点は…／自殺サ イトに書き込みをした33歳の男性／自殺サイトを利用する 30歳代男性 とにかく死にたいです 死にたい／“ネット”で 仲間を探す理由／自殺サイトを利用する30歳代男性 一人 ではまず死ねないかと思っ 一緒にいてくれた方が案に 死ねるんじゃないか	大見山ク リニック 院長	自殺ではそういう人が大勢集 まって自分のかえを肯定され て、そういう気持ちになって自 殺を安易に引きおこしやすくな る／ネットの場合は死にたいとい う表面的気持ち、あるいは周 りてそういう人が大勢いる。死 にたいということが肯定された 気持ちになり集団心理が働く 自殺を助長させ、行為を助けた 場合自殺関与罪があるが、論 理上成立するが簡単に認定さ れることではない	「そういうサイトを開いたり、ある いはプロバイダーが知ってこ ういうものをあげていたりした場 合には責任が問われるべき」(木村 太郎)	略	N
		14	CX	638		弁護士				